

特別研究員の就職状況調査結果について

(平成16年4月1日現在)

PDの「常勤の研究職」への就職状況

平成15年度終了者(直後):43%

平成14年度終了者(1年経過後):51%

平成10年度終了者(5年経過後):75%

平成4年度終了者(11年経過後):87%

DCの「常勤の研究職」への就職状況

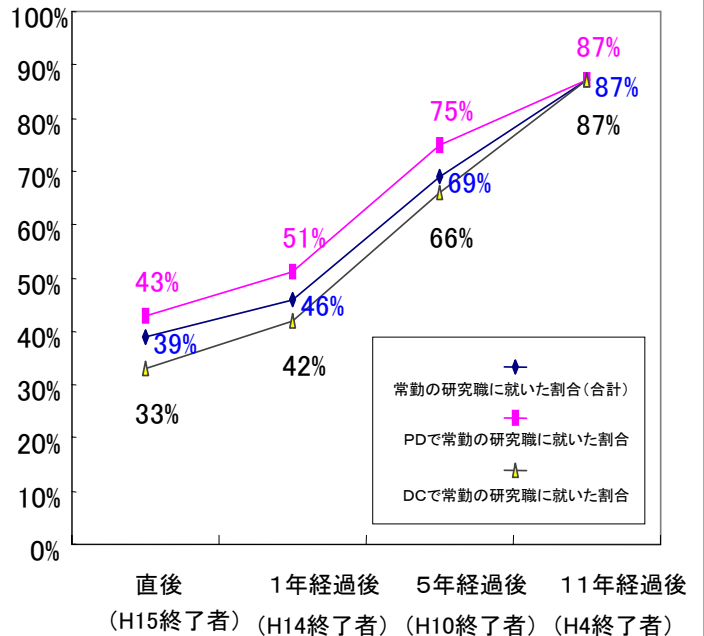
平成15年度終了者(直後):33%

平成14年度終了者(1年経過後):42%

平成10年度終了者(5年経過後):66%

平成4年度終了者(11年経過後):87%

「常勤の研究職」の割合(終了年度別)



《調査結果から》
 日本学術振興会特別研究員は11年後調査では、87%が「常勤の研究職」に就いており、我が国の研究者の養成・確保の中核的な役割を果たしている。

特別研究員制度とは

優れた若手研究者に、その研究生生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度。

大学院博士課程在学者及び大学院博士課程修了者等で、将来研究者となることを目指す者を「特別研究員」に採用し、2～3年間フェローシップを支給。

○特別研究員終了者数及び特別研究員数の推移(昭和61年度～平成15年度)(PD、DCの合計)

